

戦前日本の中国語教育の変遷

東亜同文書院を事例として

愛知大学東亜同文書院大学記念センター 石田卓生

2016年9月9日（金）国際ワークショップ「近代中国社会と日中関係」於愛知大学名古屋校舎

JSPS科研費基盤研究（C）26370747助成

戦前日本の中国語教育に対する二元論的なイメージ

日本の対中国進出・侵略に依拠

中国語は実用 × 欧米言語は文化・学術

科学的教授法の欠如

戦前と戦後，中国語と欧米言語といった単純な**善悪の二項対立**で捉える。

中国語教育と日本の中国への進出・侵略

計画性なき中国語教育

官立中国語教育機関の不振と中国との戦争

政官財軍エリート of 欧米言語偏重

日清貿易研究所・東亜同文書院学生の通訳動員

近代日本のキャリアデザインと外国語教育

なぜ欧米言語教育が重視されたのか

近代化のための欧米志向の教育



学歴エリートの誕生



キャリア形成のための欧米言語教育

東亜同文書院の中国語教育①

中国人教員によるテキスト本文の音読



日本人教員による説明

大旅行

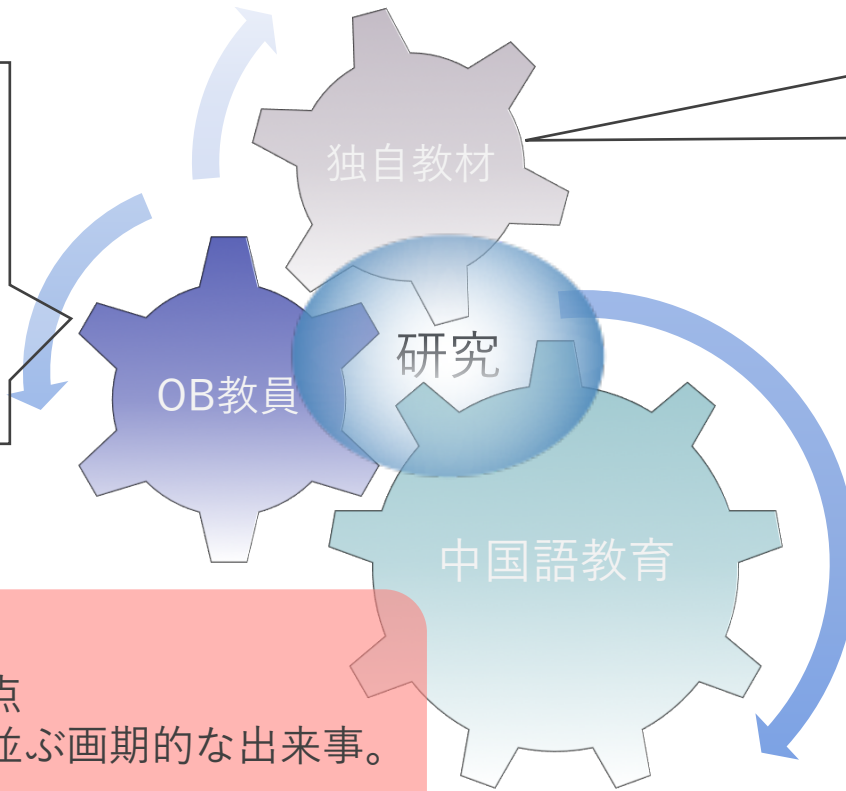


発音と文意を対照しつつ音読・発話練習

中国人教員と日本人教員がペアとなって授業を行い，上級学年では専ら中国語のみで教授。それは戦前の教育界で注目されていたドイツ教育学のヘルバルト派の段階教授法に似る。また学生のみで中国をフィールドワークする「大旅行」が具体的な目標として設定されており，単なる実用目的ではなく“接地气”（中国社会に馴染む）を目指す。

東亜同文書院の中国語教育②

- ・御幡雅文（日清貿易研究所教員）
- ・真島次郎（2期）
- ・清水董三（12期・中華民国公使）
- ・鈴木沢郎（15期・愛知大教授）
- ・久重福三郎（16期・神戸市外大教授）
- ・熊野正平（17期・一橋大教授）
- ・坂本一郎（20期・神戸市外大・関大教授）
- ・福田勝蔵（32期）



- ・支那研究部華語研究会
- ・『華語萃編』初集-四集
- ・『北京官話旅行用語』
- ・『華語月刊』
- ・中国語辞典編纂

旧制大学昇格（1939）

- ・戦前日本の中国語教育の到達点
- ・中国語教育が欧米言語教育に並ぶ画期的な出来事。
- ・日本の中国侵略との関わり。